

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成28年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
28-8	鋼橋の現位置改良工法の開発	（一社）日本橋梁建設協会 部長 大野 豊繁	B
<p><研究の概要></p> <p>本研究は、損傷した鋼橋を現在の位置で供用しながら、維持管理がより容易な新構造へと改良する新しい工法を開発するものであり、その特徴は、既設主構造から新設主構造へと耐荷機能を移行することである。工法の適用性、安全性と実用性を実験と解析で検証する。</p> <p><中間評価></p> <p>研究の進捗状況は概ね順調であり、研究成果の見通しがある程度期待できることから、指摘事項に留意しつつ、実用化に向けて本工法の適用範囲や施工性を明らかにした取りまとめに向けて、現行のとおり推進することが妥当と評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成果としてどこまで汎用化、システム化、マニュアル化できるかを明らかにして取りまとめたい。 2. 既設部材と新設部材が協働し、荷重分担が徐々に新設橋に移行するメカニズムを制御するにあたって、その前提条件を明らかにできるように、解析及び実験の計画を立案し、設計法を提案していただきたい。 3. 旧構造物の劣化状況を前提として、新旧の剛性比率及びその後の荷重分担比率に関する設計指標をまとめていただきたい。 4. 既設＋新設部材の設計で満足させる要求性能と、新設部材のみの設計で満足させる要求性能は異なると考えられるので、試設計等により、どのレベルの性能になるかを明らかにしていただきたい。 5. 供用しながら改良することから、改良中における検証を行う必要がある。 			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。